

高等学校硬式野球部監督の言葉かけに関する研究

—— 甲子園大会出場チームの監督を対象として ——

藤 田 雅 文*, 佐 藤 安 通**

(キーワード：高等学校, 硬式野球部, 監督, 言葉かけ)

1. 緒 言

文部科学省は、平成24年12月に生じた大阪市立桜宮高等学校男子バスケットボール部のキャプテンに対する男性顧問の体罰と自殺事案等、運動部活動における体罰が問題となっていること、また、教育再生実行会議の第一次提言において、運動部活動指導のガイドラインを作成することが提言されていることを受け、「運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議」を設置し、平成25年5月27日に「運動部活動での指導のガイドライン」を含む調査研究報告書¹⁾をとりまとめている。本ガイドラインの「実際の活動での効果的な指導に向けて」では、「生徒の心理面を考慮した肯定的な指導」の必要性を強調しており、「それぞれの目標等に向けて様々な努力を行っている生徒に対して、評価や励ましの観点から積極的に声を掛けていくことが望まれます。」と述べている。

スポーツ場面での指導者の言葉かけの効果について、堀田 (2007)²⁾は、少年サッカーにおいて肯定的な言葉かけによる指導が、運動量やボールタッチ数に影響すると報告しており、河村ら (2010)³⁾は、ジュニアユースサッカー選手を対象として、ミニゲーム中の「勇気づけ」の言葉かけが、心理状態と運動強度に良い影響を与えることを明らかにしている。また、鈴木 (2010)⁴⁾は、コーチの言葉かけの量によって、選手の練習における反復回数が増え、練習の質が高まったと報告しており、矢澤 (2013)⁵⁾は、インターハイ出場選手のやる気を高めた指導者の言葉かけは、「努力したら報われる」「思い切ってアピールしてこい」などであったと報告している。

一方、学校教育における教師の言葉かけの効果について、高橋ら (1991)⁶⁾は、小学校体育授業における教師の相互作用行動の観察カテゴリーを、発問、受理、フィードバック (肯定的、矯正、否定的)、励まし、補助的相互作用の7つに分類し、「動きながらもらいにいったから、すごくいい」「うまい、よ～し」等の肯定的フィードバックと「大丈夫、打てるよ」「最後まで頑張れ」等の励ましの言葉かけが、児童の体育授業の評価にプラスの影響を与えていることを明らかにしている。また、吉川ら (2007)⁷⁾は、大学生を対象にして高校時代までの教師とのコミュニケーションについて調査し、生徒のやる気を高めた教師の言葉かけは、「よくがんばった」「おまえはまだまだ伸びるぞ」などの肯定的な人物評価、「自分のペースで勉強をすすめればよい」などの前向きな助言、「これからもその調子でね」などの励ましであることを明らかにしている。

本研究は、上述した先行研究を参考にして、運動部活動における練習や大会の場面で、指導者は部員に対してどのような言葉かけをするべきかという実践的な課題解決のため、春の選抜高等学校野球大会及び夏の全国高等学校野球選手権大会に出場したチームの監督を対象とした調査を実施し、有能な指導者の言葉かけの特長を探ることで、運動部活動での指導のあり方に対する示唆を与えることを目的とした。

2. 方 法

(1) 調査の対象・方法・期間、回答数 (率)

過去5年間に於いて、春の選抜高等学校野球大会及び夏の全国高等学校野球選手権大会に出場した高等学校の硬式野球部監督225名を対象として、郵送による質問紙調査を平成26年10月～12月に実施した。回収状況は、有効標本数73、有効回答率32.4%であった。

*鳴門教育大学生生活・健康系コース (保健体育)

**東みよし町立三加茂中学校

(2) 調査内容

第一の質問項目として、①「指導者（監督・コーチ）の言葉かけは、選手の技能ややる気を向上させるために重要だと思いますか」と設問し、言葉かけの重要性に対する評価の程度について、4つの選択肢（4とてもそう思う、3ややそう思う、2あまりそう思わない、1全くそう思わない）を用意して、1つを選択してもらった。

第二の質問項目以降は、②「ダッシュなどの追い込み練習」、③「試合前のミーティング」、④「二死満塁のサヨナラのピンチの場面」、⑤「無死満塁の逆転のチャンスの場面」、⑥「ピンチでエラーをした後」、⑦「チャンスで三振した時」、⑧「試合後のミーティング」で、肯定的な言葉かけをよくしたのか、もしくは否定的な言葉かけをよくしたのかについて設問し、これまでに最も印象に残っている言葉かけを記述してもらい、その際の効果・結果を記入してもらった。

(3) 言葉かけの分類

高橋ら（1991）⁶⁾と吉川ら（2007）⁷⁾の先行研究を参考にして、言葉かけの分類のカテゴリーを再考し、13のカテゴリーに分類して分析を行った。

(4) 統計処理

Microsoft Excel for Mac2011を使用して、適合度の検定、比率の差の検定を行い、テキストマイニング（KH coder）によって言葉かけの中の単語の出現頻度や単語の結びつきについて分析した。

3. 結 果

(1) 言葉かけの重要性

「指導者（監督・コーチ）の言葉かけは、選手の技能ややる気を向上させるために重要であると思いますか」という設問に対する回答については、「とてもそう思う（89.0%）」、「ややそう思う（11.0%）」という結果であり、全員がその重要性について肯定していた。

表1. 言葉かけの重要性に対する回答

全くそう思わない		あまりそう思わない		ややそう思う		とてもそう思う	
f	%	f	%	f	%	f	%
0	0.0	0	0.0	8	11.0	65	89.0

$$\chi^2 = 162.01 \quad p < .001$$

(2) 表現の仕方

「追い込み練習中」から「試合後のミーティング」に至る7つの具体的な場面では、「肯定的な言葉かけ」をよくしている指導者が絶対多数を占めていた。

(3) テキストマイニングによる分析結果（追い込み練習中）

「自分に負けるな」「自分で限界を作るな」「しっかり走れ」「試合で勝ちたいなら頑張れ」「この苦しさを乗り越えたときに強くなれるぞ」「甲子園に行くぞ」など、士気を高める言葉かけが多く、「自分」「苦しい」「走る」「頑張る」「強い」「目標」「練習」「結果」といったキーワードを多用している状況が伺われた。また、「（勝利のために）頑張る」「勝負（に勝つ喜びのために耐える）」「（目的意識を）持つ」といった、選手に対して、苦しい練習の必要性和目標を意識化させる言葉かけを行っていることが伺えた。

(4) 言葉かけの表現内容

本研究では、記述式の回答によって得た、練習・大会における指導者の言葉かけの内容を高橋ら（1991）⁶⁾と吉川ら（2007）⁷⁾の先行研究における言葉かけの分類を参考にして、以下の表4に示した13の動詞のカテゴリーで分類し、各場面における各カテゴリーに位置付く言葉かけの割合を算出した。

「追い込み練習」から「試合後のミーティング」に至る、7つの場面での指導者の言葉かけの内容の頻度と割

表 2. 練習・大会の場面における言葉かけの表現の仕方

場 面	肯定的		否定的		N.A.		検定 ^{注)}
	f	%	f	%	f	%	
追い込み練習中	52	71.2 (82.5)	11	15.0 (17.5)	10	13.7	$z_0 = 5.166***$
試合前のミーティング	67	91.8 (97.1)	2	2.7 (2.9)	4	5.5	$z_0 = 7.825***$
二死満塁のサヨナラのピンチ	68	93.2 (100.0)	0	0.0 (0.0)	5	6.8	$z_0 = 8.246***$
無死満塁の逆転のチャンス	64	87.7 (97.0)	2	2.7 (3.0)	7	9.6	$z_0 = 7.632***$
ピンチでエラー	53	72.6 (93.0)	4	5.5 (7.0)	16	21.9	$z_0 = 6.490***$
チャンスで三振	53	72.6 (91.4)	5	6.8 (8.6)	15	20.5	$z_0 = 6.303***$
試合後のミーティング	45	61.6 (84.9)	8	11.0 (15.1)	20	27.4	$z_0 = 5.082***$

注) N.A.のデータを除いた () 内の比率の差の検定結果である。

$p < .001***$

表 3. 追い込み練習中の肯定的な言葉かけの分析結果 (出現回数)

名詞	回数	サ変名詞	回数	形容動詞	回数	地名	回数	副詞可能	回数	未知語	回数	動詞	回数	形容詞	回数
自分	9	練習	5	大事	2	甲子園	2	結果	5	チームメイト	1	走る	7	苦しい	8
目標	5	ダッシュ	3	十分	1			夏	2			頑張る	6	強い	6
全力	4	試合	3	大切	1			一生懸命	1			勝つ	4	速い	4
最後	3	意識	2	非常識	1			一番	1			取り組む	3	辛い	2
限界	2	回転	2	明確	1			最近	1			乗り越える	3	厳しい	1
野球	2	勝負	2					全て	1			負ける	3	高い	1
ゲーム	1	クリア	1					途中	1			考える	2	大きい	1
シーズン	1	スタート	1									持つ	2	明るい	1
スピード	1	プレー	1									出る	2	良い	1

合を一覧にしたのが表 5-1 及び表 5-2 である。

「追い込み練習」と「試合前のミーティング」では、「鼓舞する」が最も多く、前者が51.9%、後者は57.1%で半数を超えていた。「ピンチの場面」では、「鼓舞する」(42.1%)と「助言する」(31.4%)の2つの内容の言葉かけが多くなされていることが分かる。「チャンスの場面」では、「助言する」が半数を占めており、「ピンチでエラーした時」は「切り替える」が63.5%を占めていた。「チャンスで三振した時」は、「切り替える」(40.0%)と「助言する」(22.0%)の2つの内容の言葉かけが多くなされていることが分かる。

「試合後のミーティング」では、勝利した試合と敗北した試合が混在するため、言葉かけの内容に大きな偏りは見られず、「鼓舞する」(18.9%),「励ます」(16.2%),「助言する」(13.5%),「切り替える」(13.5%),「称賛する」(13.5%)など、様々な言葉かけが行われていることが分かる。

(5) 各場面における言葉かけと効果の例

記述された回答の中から、筆者が感嘆させられた、練習・大会における様々な場面での指導者の言葉かけと効果の一例を示したのが表 6 である。「鼓舞する」「切り替える」という内容の指導者の言葉かけが、全体の部員や各選手に与える影響が大きいことが理解できる。

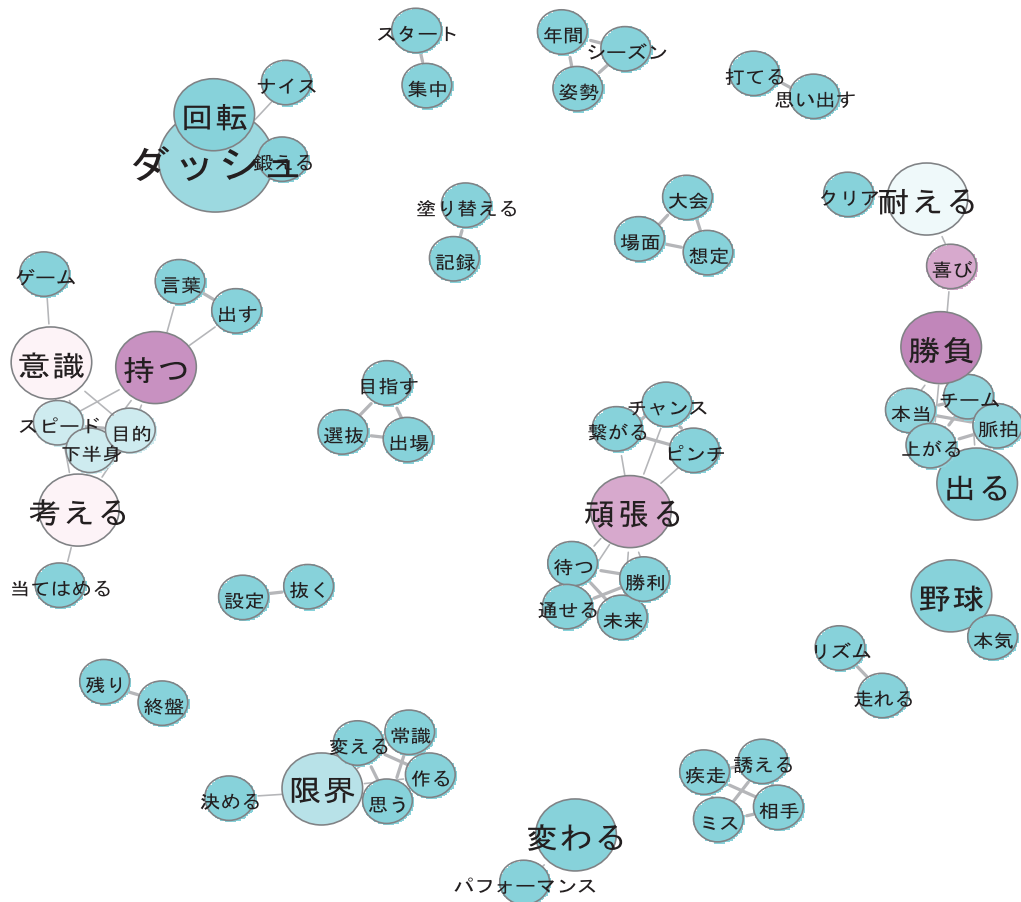


図1. 追い込み練習中の肯定的な言葉かけの分析結果（共起関係）

表4. 言葉かけの分類カテゴリー

カテゴリー	内 容
1. 褒める	「良くやった」など、肯定的に評価して相手をたたえる言葉。
2. 鼓舞する	「勇気を持って戦ってこい」など、相手の気持ちを奮い立たせる言葉。
3. 励ます	「頑張れ」など、相手を勇気づける言葉。
4. 助言する	「守備位置を変えろ」など、プレーに対して指導・意見する言葉。
5. 感謝する	「ありがとう」など、相手に謝意を表す言葉。
6. 切り替える	「切り替えろ」など、相手の気持ちや思考を替えさせようとする言葉。
7. 称賛する	「素晴らしい」など、相手を褒め称える言葉。
8. ねぎらう	「よく戦ったな」など、相手をいたわる言葉。
9. 容認する	「やめていいよ」など、よいとして認め許すこと。
10. 貶す	「ダメな奴だ」など、相手の悪い点を取り上げて非難する言葉。
11. 罵倒する	「ばか」など、激しい口調で相手をののしる言葉。
12. 責める	「どうしてエラーした」など、過失を取り上げて相手を避難する言葉。
13. その他	「考えるな」「感じる」など、1～12のいずれにも分類できない言葉。

表 5－1. 各場面における言葉かけの表現内容の割合

カテゴリー	追い込み練習		試合前ミーティング		ピンチの場面		チャンスの場面	
	f	%	f	%	f	%	f	%
1. 褒める	2	3.7	1	1.4				
2. 鼓舞する	28	51.9	40	57.1	27	42.1	14	31.8
3. 励ます	6	11.1	19	27.1	9	14.1	8	18.2
4. 助言する	4	7.4	2	2.9	20	31.4	22	50.0
5. 感謝する								
6. 切り替える					4	6.3		
7. 称賛する								
8. ねぎらう	2	3.7	5	7.1				
9. 容認する	1	1.9	2	2.9	4	6.3		
10. 貶す	6	11.1	1	1.5				
11. 罵倒する								
12. 責める	4	7.4						
13. その他	1	1.8						
N	54		70		64		44	

表 5－2. 各場面における言葉かけの表現内容の割合

カテゴリー	ピンチでエラー		チャンスで三振		試合後ミーティング	
	f	%	f	%	f	%
1. 褒める			4	8.0	2	5.4
2. 鼓舞する	2	3.8			7	18.9
3. 励ます	5	9.7	5	10.0	6	16.2
4. 助言する	3	5.8	11	22.0	5	13.5
5. 感謝する					1	2.8
6. 切り替える	33	63.5	20	40.0	5	13.5
7. 称賛する					5	13.5
8. ねぎらう	1	1.9	2	4.0	2	5.4
9. 容認する			1	2.0	2	5.4
10. 貶す	2	3.8	5	10.0		
11. 罵倒する	2	3.8	1	2.0		
12. 責める	3	5.8	1	2.0	2	5.4
13. その他	1	1.9				
N	52		50		37	

表 6. 各場面における言葉かけと効果の例

場 面	言葉かけの例	効 果
追い込み練習	負けた時、打てなかった時の悔しさを思い出して走れ。	最後までやり切り、チームメイトで声をかけ合っていた。
試合前ミーティング	自分を信じて、チームを信じて、チーム一丸となって最後まで戦おう。	接戦をものにすることができた。
ピンチの場面	思い切れ、何も考えずに思いっきり自分の球を投げてこい。	選手全員の声かけが変わった。
チャンスの場面	ホームランか三振しろ。	サヨナラホームラン。
ピンチでエラー	誰もエラーしたくてエラーしているわけじゃない、次のプレーだ。	一歩目のスピードが速くなった。
チャンスで三振	今のボールをよく覚えておけ、次の打席で生かせ。	次に結果を出してくれた。
試合後ミーティング	またこのメンバーで試合ができる、1 試合でも多くこのメンバーで戦えるように次の試合でも悔いのない試合をしよう。	接戦をものにして優勝することができた。

4. まとめ

2015年の夏の甲子園大会の準決勝（対早稲田実業）で、仙台育英の佐藤世投手は、121球を投げて完投した。疲労から4回までに6失点したが、5回以降は佐々木順一郎監督の「支えてくれた人のために投げろ」の言葉で気持ちを切り替え、5回からの4イニングを無安打に抑えたという事例⁸⁾がある。本研究では、このような言葉かけの効果を検証するため、高等学校硬式野球部を春または夏の甲子園大会に導いた有能な73名の監督の練習・大会での様々な場面における部員に対する言葉かけの内容を分類し、その特長について分析した。その結果、部員の体力・運動技能・士気を高め、大会での勝利を目指すためには、指導者は、肯定的な言葉かけを心がけ、練習や大会における様々な場面で部員の気持ちを鼓舞し、部員を励まし、戦術や技術の助言をし、失策した場面では部員の気持ちを切り替えさせ、試合後には選手の奮闘を称賛することが必須であることを明らかにすることができた。

本研究では、高校野球の有能な監督の言葉かけの特長について明らかにした。しかし、指導者の言葉かけの内容と効果については、種目、プレイヤーの年齢・性別によって異なると考えられる。したがって、今後は、研究対象とする種目・プレイヤーの年齢・性別を広げて追試的な研究を継続して行ってゆく必要があると考える。

文 献

- 1) 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議（2013）運動部活動の在り方に関する調査研究報告書～一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して～，p. 11.
- 2) 堀田健治（2007）少年サッカー選手における肯定的な言葉かけと運動量およびボールタッチ数の関係，東海大学大学院体育学専攻修士論文.
- 3) 川村佑貴・中島宣行（2010）ジュニアユースサッカー選手におけるミニゲーム中の「勇気づけ」が競技意欲、心理状態、運動強度に及ぼす影響－目標志向性に注目して－，順天堂スポーツ健康科学研究，2（3），pp. 95－98.
- 4) 鈴木修平（2010）指導者の言葉かけが選手に及ぼす影響，東海大学大学院体育学専攻修士論文.
- 5) 矢澤久史（2013）指導者からの言葉かけがスポーツ選手のやる気に及ぼす影響，日本教育心理学会第55回総会発表論文集，p. 357
- 6) 高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆司・芳本真（1991），体育授業における教師行動に関する研究－教師行動の構造と児童の授業評価との関係－，体育学研究，36（3），pp. 193－208.
- 7) 吉川正剛・三宮真智子（2007）生徒の学習意欲に及ぼす教師の言葉かけの影響，鳴門教育大学情報教育ジャー

ナル, 4, pp. 19-27

- 8) SANSPO.COM (2015) 仙台育英・佐藤世, 泣くな…10失点も139球投げきった／甲子園 <http://www.sanspo.com/baseball/news/20150821/hig15082105050007-n1.html>, (参照日2015年8月21日)

A Study on High School Baseball Manager's Talks On Managers Who Participated in The KOSHIEEN Tournament

FUJITA Masafumi* and SATO Yasumichi**

The purpose of this study was to investigate the characteristics of high school baseball manager's talks to players who participated in the KOSHIEEN tournament (national high school baseball championship).

The subjects were 73 managers of high school baseball clubs in Japan. The investigations were performed from October to December in 2014. Manager's talks were classified by 2 categories, "affirmative" and "negative". The details of manager's talks were classified by 13 categories, "praise", "raise the morale", "cheer up", "advise", "give thanks", "change player's feelings", "praise", "appreciate the pains", "admit", "run down", "abuse", "blame" and "the others". The 7 situations, "hard training", "meetings before games", "the pinch with playing games", "the chance for coming from behind", "the poor fielding in a pinch", "the strikeout in a big chance" and "meetings after games" in which managers talked to players were set up.

The results were picked out as follows.

- 1) Most of managers talked affirmatively to players on all of the situations (82.5%~100%).
- 2) Many managers raised the morale on "hard training" (51.9%) and "meetings before games" (57.1%).
- 3) Many managers raised the morale (42.0%) and advised on the pitching and defense (31.4%) on "the pinch with playing games".
- 4) Many managers advised on the batting (50.0%) and raised the morale (31.8%) on "the chance for coming from behind".
- 5) Many managers changed player's feelings (63.5%) on "the poor fielding in a pinch".
- 6) Many managers changed player's feelings (40.0%) and advised on the batting (22.0%) on "the strikeout in a big chance".
- 7) Managers talked diversely to players in "meetings after games". They raised the morale (18.9%), cheered up (16.2%), advised (13.5%), changed player's feelings (13.5%), praised (13.5%) in the scene.

*Health and Physical Education, Naruto University of Education

**Higashi Miyoshi City Municipal Mikamo Junior High School